

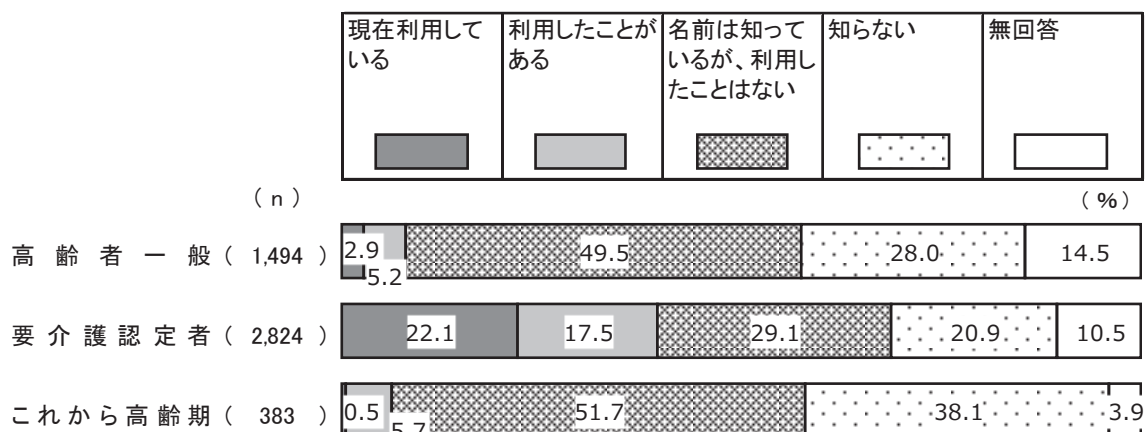
## 8 高齢者相談センター

### (1) 高齢者相談センターの認知度

○高齢者相談センターを「知らない」と回答した人は、高齢者一般で28.0%、要介護認定者で20.9%、これから高齢期で38.1%となっている。

○いずれの調査においても、「現在利用している」「利用したことがある」「名前は知っているが、利用したことはない」を合わせた“知っている”が、「知らない」を上回っている。

■高齢者相談センターの認知度



### 【経年比較】

○平成25年度調査結果と比較すると、平成28年度の要介護認定者の調査結果は、“知っている”が7割近くと高い。

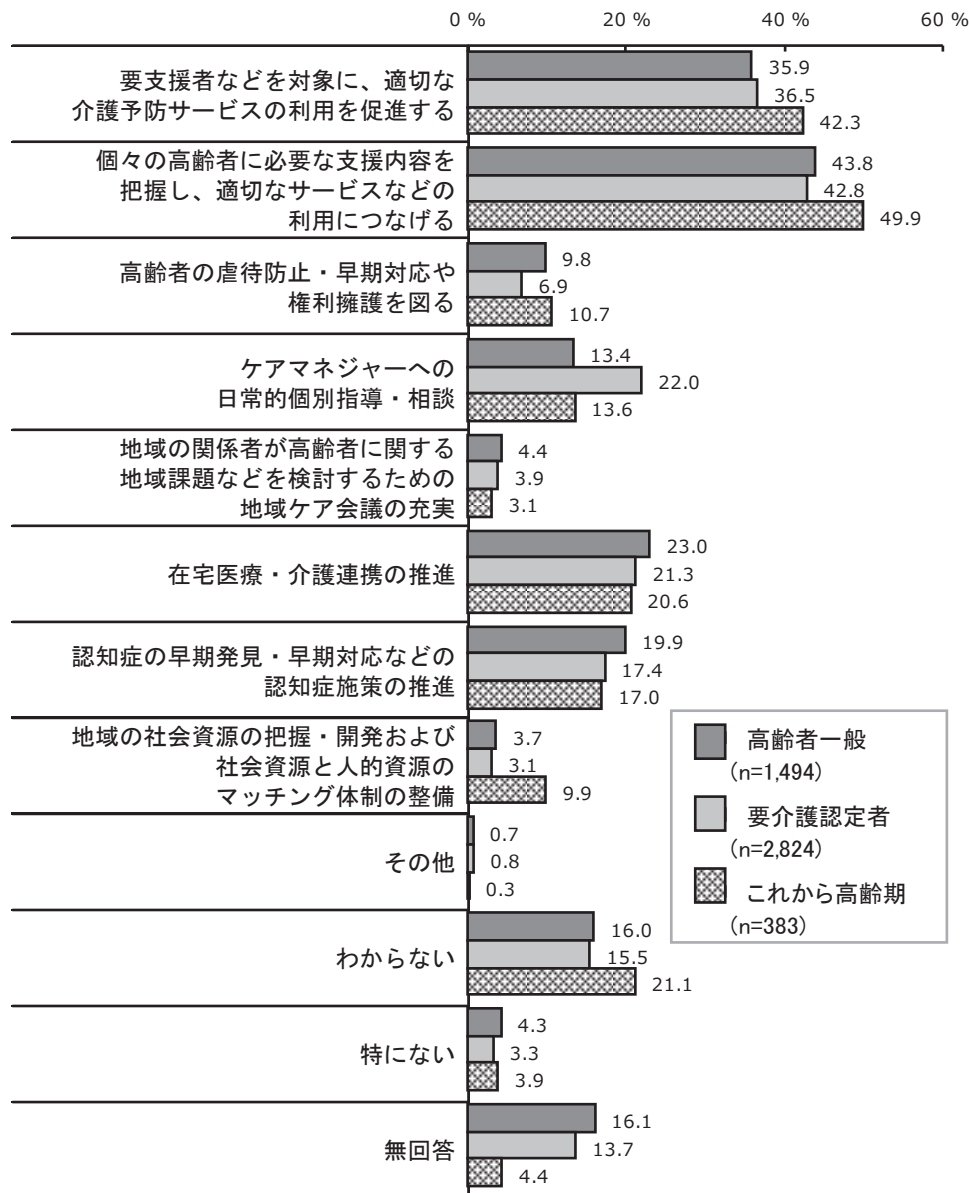
### ■高齢者相談センターの認知度<要介護認定者：経年比較>

	n	現在利用している	利用したことがある	名前は知っているが、利用したことはない	知らない	無回答
平成28年度	2,824	22.1	17.5	29.1	20.9	10.5
平成25年度	1,534	15.1	14.0	31.9	31.0	8.0

## (2) 高齢者相談センターに期待する役割

○いずれの調査においても、「個々の高齢者に必要な支援内容を把握し、適切なサービスなどの利用につなげる」が最も高く、高齢者一般で43.8%、要介護認定者で42.8%、これから高齢期で49.9%となっている。次いで、「要支援者などを対象に、適切な介護予防サービスの利用を促進する」が続いている。

■高齢者相談センターに期待する役割（○は3つまで）

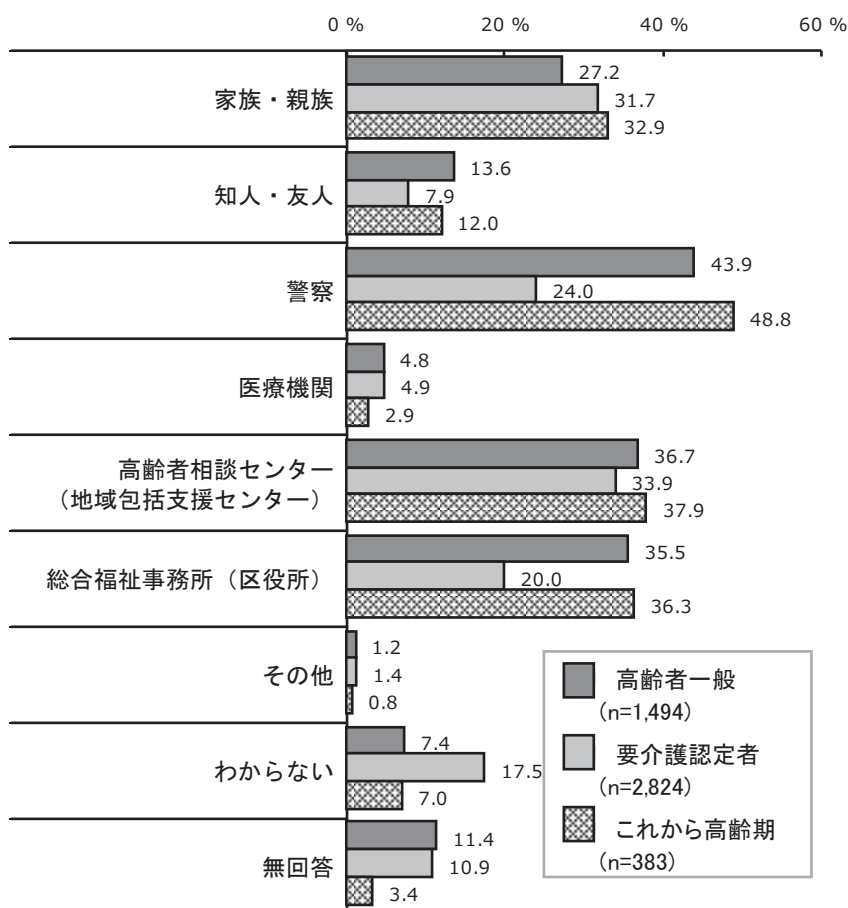


### (3) 高齢者の虐待

#### ① 高齢者虐待の相談先

- 高齢者一般、これから高齢期では、「警察」が最も高く（それぞれ43.9%、48.8%）、次いで「高齢者相談センター（地域包括支援センター）」（それぞれ36.7%、37.9%）と続いている。また、「わからない」は、それぞれ7.4%、7.0%となっている。
- 要介護認定者では、「高齢者相談センター（地域包括支援センター）」（33.9%）が最も高く、「家族・親族」（31.7%）、「警察」（24.0%）となっている。また、「わからない」は17.5%となっている。

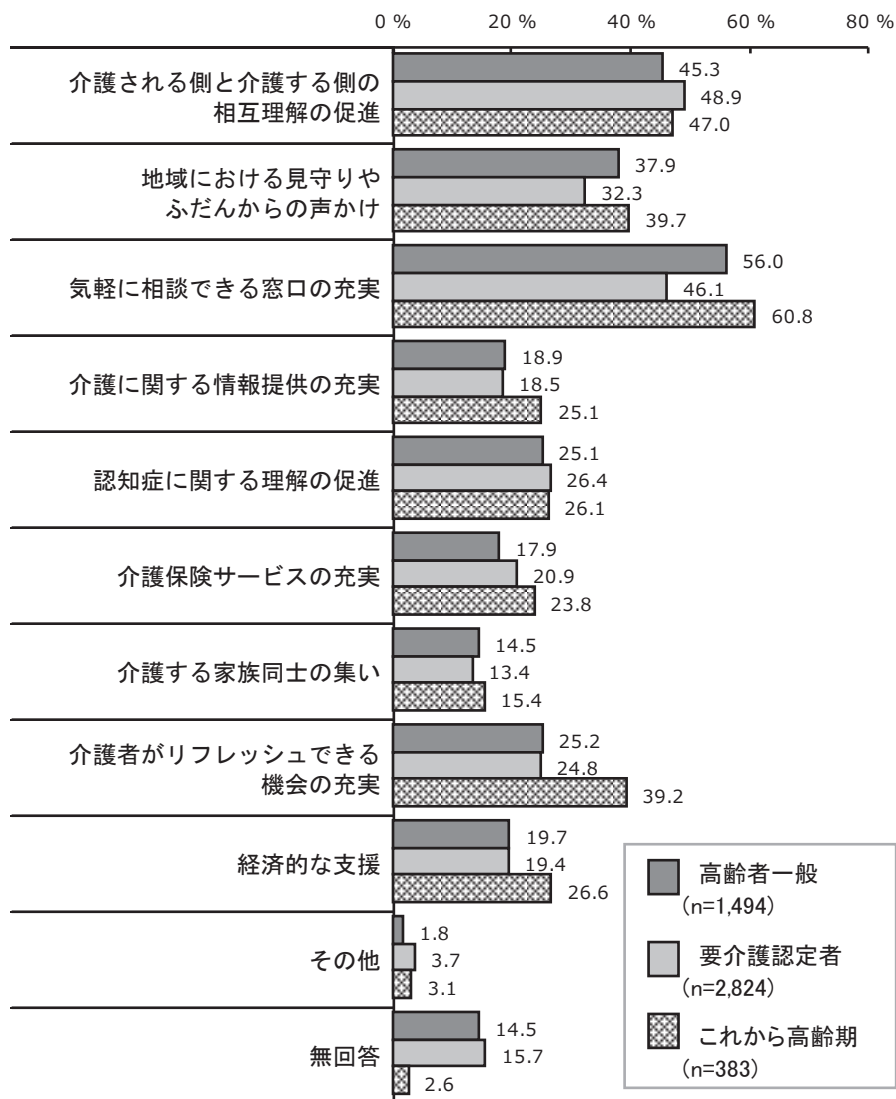
■高齢者虐待の相談先（複数回答）



## ② 高齢者虐待を防止するために必要なこと

- 高齢者一般、これから高齢期では、「気軽に相談できる窓口の充実」（それぞれ 56.0%、60.8%）が最も高く、次いで「介護される側と介護する側の相互理解の促進」（それぞれ 45.3%、47.0%）、  
「地域における見守りやふだんからの声かけ」（それぞれ 37.9%、39.7%）と続いている。
- 要介護認定者では、「介護される側と介護する側の相互理解の促進」（48.9%）が最も高く、次いで、「気軽に相談できる窓口の充実」（46.1%）、「地域における見守りやふだんからの声かけ」（32.3%）と続いている。

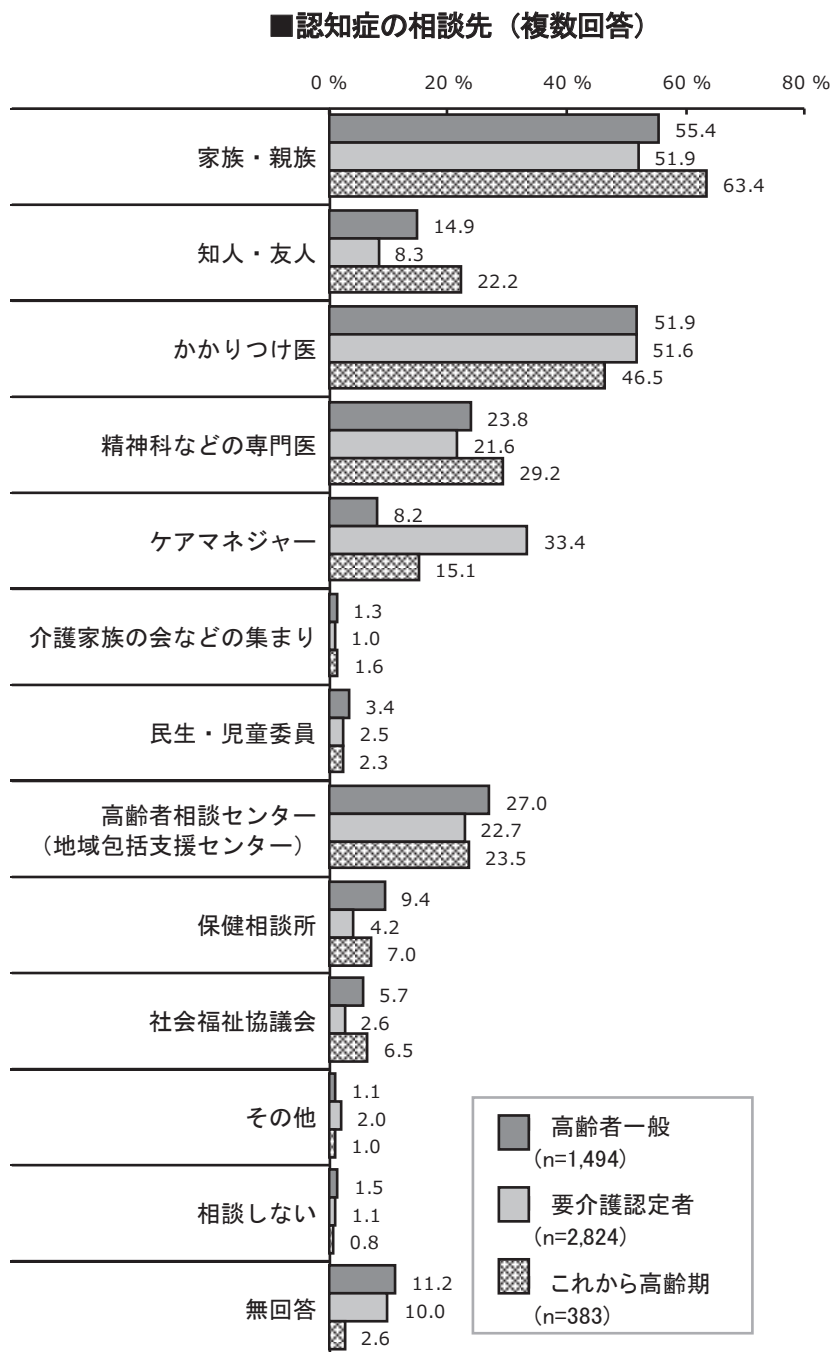
■高齢者虐待を防止するために必要なこと（複数回答）



## (4) 認知症

### ① 認知症の相談先

○いずれの調査においても、「家族・親族」が最も高く（高齢者一般で 55.4%、要介護認定者で 51.9%、これから高齢期で 63.4%）、次いで「かかりつけ医」（それぞれ 51.9%、51.6%、46.5%）と続いている。



## ② 認知症施策で必要なこと

○いずれの調査においても、「認知症の兆候を早期に発見できる仕組みづくり」が最も高く、高齢者一般で49.5%、要介護認定者で46.8%、これから高齢期で54.0%となっている。次いで、高齢者一般では「本人や介護している家族が安心できる相談先や居場所の整備」(34.3%)、「介護している家族の負担の軽減」(32.0%)と続いている。要介護認定者、これから高齢期では、「介護している家族の負担の軽減」(それぞれ33.1%、46.7%)、「本人や介護している家族が安心できる相談先や居場所の整備」(それぞれ31.5%、39.7%)と続いている。

■認知症施策で必要なこと (○は3つまで)

